

治山と林道



2017「しまねの森林」フォトコンテスト入賞作品

〈最優秀賞〉「わさび田の再生」（大田市）

今井祥紀さん

講評 審査委員長 日本写真協会会員 成相吉堯

山葵の葉を前面に配し、谷懐に積まれた石垣と、そこから溢れ落ちる清水は、山の豊かな保水力を窺うことが出来ます、また人物を描写することで生き生きとした作品になりました。

目次

平成29年度通常総会を開催	1
トピックス	
（島根県隠岐支庁・隠岐の島町、島根県山地防災ヘルパー協議会）	3
会員コーナー（津和野町、雲南市）	6
県の取り組み紹介（農林水産総務課）	11
県からのお知らせ（林業課）	13
森林協会からのお知らせ	14

平成29年度通常総会を開催

平成29年7月26日、島根県林業会館において平成29年度通常総会を開催しました。

開会に当たり、速水会長から「今月5日早朝、島根県に大雨特別警報が発令され、県西部を中心に孤立集落が出るなど甚大な被害が発生した。その後、北九州地区や東北地方でも集中豪雨による大災害が発生した。被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧を望んでいる。

山が急で土質が脆い島根県では常に大雨に対する備えを怠らないことが肝要である。治山事業や森林整備事業の推進にも力を入れていく必要があると考えている。

県から受託している「しまね森林活動サポートセンター」では各地域で開催される「防災学習会」等へ「森づくりサポーター」を派遣し、地域の皆様や市町村と一緒に森林パトロールや山地災害危険地区の点検を行うとともに、災害に備える知識など伝えている。

一方、森林は国土保全のみならず、水源かん養など公益的機能を持ち、さらに木材産業を通じて地域の活性化と雇用創出に寄与しているが、現状は所有者や境界が不明確な森林の増加。また、担い手不足、長期に亘る木材価格の低迷で森林の荒廃が深刻な状況にある。

現状に即し、雲南市では市有林を核として森林を団地化した上、森林組合へ施業を信託する「森林整備モデル団地事業」の仕組みを作り、独自に取り組んでいる。

森林協会では、こうした地域での森林整備を長期的、かつ安定的に行うための財源として「森林環境税」の創設を強く国へ働きかけていく。併せて、森林・林業施策の充実・強化と予算確保に向け、引き続き、中央協会をはじめ関係機関や団体と連携を図り、より一層、取り組んでいく。」旨の挨拶がありました。

続いて、森林土木事業功労者、治山・林道工事コンクールの表彰式が行われ、会長から表彰状と記念品が授与されました。

来賓の島根県農林水産部松浦部長と一般社団法人日本治山治水協会・日本林道協会長の祝辞（高原調査部長代読）の後、議事に入り、提案した6議案は全て提案どおり承認されました。

一般社団法人 島根県森林協会役員 池田 高世偉

役職名	会員名	氏名	備考	役職名	会員名	氏名	備考
会長理事	雲南市	速水 雄一	再任	理事	吉賀町	中谷 勝	再任
副会長理事	隠岐の島町	池田高世偉	新任	理事	飯石森林組合	立石 幸	新任
副会長理事	美郷町	景山 良材	再任	理事	大田市森林組合	皆田 修司	再任
理事	浜田市	久保田章市	再任	専務理事	学識経験者	広江 慎一	再任
理事	安来市	近藤 宏樹	再任	監事	飯南町	山碓 英樹	再任
理事	出雲市	長岡 秀人	再任	監事	邑南町	石橋 良治	再任



通常総会



表彰式

表 彰

(1) 森林土木事業功労者

所 属	氏 名
浜 田 市	横 田 富 也

(2) 治山工事コンクール

事 業 名	工 事 名	施 工 場 所	受 賞 者
林地荒廃防止事業	佐太神社地区 その2工事	松江市鹿島町佐陀宮内	アサヒ工業(株) 實重 正樹
水源森林再生対策事業	大吉田2工区 溪間工事	雲南市吉田町吉田	(有) 岡田建設 岡田 治一
復旧治山事業	川北上山腹工事	出雲市佐田町八幡原	(株) 淞南ダイア 三原 晴治
自然災害防止事業	金比羅山地区 法面工事	邑智郡川本町大字川本	平成建設(有) 坂根 秀彦
林地荒廃防止事業	荒相地区3工区 山腹工事	浜田市上府町	イワミ工業(株) 児玉 勝
県単自然災害防止事業	流石地区工事	鹿足郡津和野町中座	堀建設(株) 堀 大地
復旧治山	大山 その2工事	隠岐郡西ノ島町美田	西ノ島建設(株) 松尾 利徳

(3) 治山木材使用工事コンクール

事 業 名	工 事 名	施 工 場 所	受 賞 者
森林再生対策事業	大吉田2工区 溪間工事	雲南市吉田町吉田	島根県雲南県土整備事務所 農林工務部治山・林道課

(4) 林道維持管理コンクール

路 線 名	路 線 位 置	管 理 者	代 表 者
亀割線	出雲市湖陵町 常楽寺・畑村	出雲市	出雲市長 長岡 秀人

(5) 林道工事コンクール

事 業 名	工 事 名	施 工 場 所	受 賞 者
林道開設(森林管理道)事業	宮本聖谷線第1工区 道路工事	出雲市多伎町奥田儀	(株) 安井組 安井 和宏

(6) 林道木材使用工事コンクール

事 業 名	工 事 名	施 工 場 所	受 賞 者
林道整備交付金事業	三子山線 第3工区工事	鹿足郡津和野町須川	島根県益田県土整備事務所 農林工務部治山・林道課

「平成 19 年 8 月隠岐豪雨災害から 10 年」事業 シンポジウム
 ～ これからの備えを考える ～
 シンポジウムプログラム 概要版

日時：平成 29 年 8 月 20 日(日) 12:30～16:30 会場：隠岐島文化会館(隠岐の島町西町吉田の二)

1 防災体験コーナー



パネル展
(災害・防災活動など)



模型実験
(土石流・地すべり)



模型実験
(雨量計)



救命救急実演
(AED など)



防災用品展示
(備蓄品など)



協賛イベント
(ドローン飛行など)

2 オープニングセレモニー



演奏 隠岐高校 吹奏楽部
 曲目 ①マーチ・シャイニング・ロード ②LUCKY STAR
 ③明日はきっといい日になる



3 オープニング

- ①主催者挨拶
 島根県隠岐支庁長 室崎 隆司
 隠岐の島町長 池田 高世偉



- ②来賓
 島根県議会議員 吉田 雅紀
 隠岐の島町議会議員 石田 茂春
 松江地方気象台長 宮田 洋

4 講演



演題 気象災害に備える…記憶と想像を生かす
 講師 山根 収 氏
 (TSK 山陰中央テレビ アナウンサー・気象予報士)

5 パネルディスカッション



テーマ 地域で取り組む防災とは
 コーディネーター 山根 収 氏
 (TSK 山陰中央テレビ アナウンサー・気象予報士)
 パネラー
 竹林 美清 氏(前 大久区長)
 藤井 俊逸 氏(株)藤井基礎設計事務所 代表取締役社長
 勝野 尚直 氏(島根県防災部 防災危機対策監)
 池田 高世偉 氏(隠岐の島町長)

6 閉会



閉会挨拶
 実行委員長 堀江 広人
 (隠岐支庁 県土整備局長)

出演者発言要旨

1 講演

講演では、「気象災害に備える…記憶と想像を生かす」と題して、TSK 山陰中央テレビのアナウンサーで気象予報士の山根収氏より、平成19年8月隠岐豪雨災害や平成26年8月広島豪雨災害の取材映像や、地球温暖化に関わる講演があり、災害に備えて記憶と想像力を生かす大切さについて講話があった。



2. パネルディスカッション

講演を頂いた山根収氏をコーディネーターに迎え、4名のパネラーが参加し、「地域で取り組む防災とは」をテーマにパネルディスカッションが行われ、パネラーの方々のこれまでの実体験を交えながら、災害への備えをどう進めていくか議論が行われた。

竹林 美清 氏 (前 大久区長)



災害当時の状況・対応や、その後の自主防災組織の取組みを紹介。今後の課題として、住民間の防災意識の温度差などを指摘。

勝野 尚直 氏 (島根県防災部 防災危機対策監)



広島豪雨災害での災害派遣の経験や災害に備えた住民組織づくりの事例を紹介。課題を明確にしながら防災訓練などに取組む必要性を指摘。

藤井 俊逸 氏

(株)藤井基礎設計事務所 代表取締役社長)



豪雨災害の特徴や防災学習会等の取組みを紹介。多世代で地域防災を考えること、地域と建設業が協力して災害に備えることの大切さを指摘。

池田 高世偉 氏 (隠岐の島町長)



防災学習や防災訓練への支援等、災害後の防災力向上について紹介。自主防災組織率の向上等、防災に直結する実践活動の重視について説明。

山地防災ヘルパーの活動報告

島根県山地防災ヘルパー協議会 佐藤 勝則、奈良井 満

私たちは山地防災ヘルパーとして、主に治山施設の点検などに協力していますが、今回、一般住民の方に防災意識を広めるという意識啓発の活動をしましたので報告します。

平成29年10月7日（月）から8日（日）にかけて出雲市斐川町の出西コミュニティセンターで「出西地区文化祭」が開催され、各サークルでの作品展示や保育園児の歌や踊り、そして軽食、バザーなどがあり、両日で2,600人あまりの人々で賑わいました。

その一角に設けられた防災コーナー（出西地区自治協会）での説明役に、しまね森林活動サポートセンターからの依頼で出西地区在住の佐藤と隣町加茂町の奈良井の二人が出かけました。

コーナーの壁には土砂災害の写真パネルを掛け、非常持ち出し品や非常食などの防災グッズ等を並べた机に囲まれた中央に「治山模型」（島根県森林協会貸出）を置いて、皆さんの立ち寄りをお待ちしました。

模型に興味を持った子どもたちには、山の手入れの有り無しによる水源かん養機能などの違いを話した後、土石（鉛玉）を流して下流の橋や家が流される様子や治山ダムを設置して土砂を堰き止める効果を目にもらい、防災施設の必要性を伝えました。大人の方には、防災ハザードマップ（市内全戸配付済み）で指定避難所や自宅周辺が水色（浸水想定区域）、又は茶色（土砂災害警戒区域）に塗られているかどうか確認してもらい、日頃から防災意識を持っていただくようお願いしました。



治山模型を使っでの土砂災害の説明



文化祭出演の出雲農林高校太鼓部の皆さん

50人の方に防災アンケートにお答えいただいたので、その集計結果をお知らせします。

防災に関するアンケートの集計結果（資料提供：出西地区災害対策委員会）

設問⑤ハザードマップなどで危険箇所を確認したことがありますか？

はい 60%

ない 40%

設問⑥家族で避難場所を決めていますか？

はい 58%

いいえ 42%

設問⑧自治会、隣保単位で防災について、話し合いが行われていますか？

行われている 50%

知らない 46%

設問⑨地域で防災訓練、防災関連のイベントがあれば、参加しますか？

できれば参加する 82%

分からない16%

危険箇所や指定避難所の確認は60%前後で更に周知が必要と思われ、また、防災についての意識はある

防災祈念式典の挙行について

島根県鹿足郡津和野町 建設課長 木村 厚雄

津和野町は、西中国山地国定公園にブナの天然林を誇る安蔵寺山や秀峰青野山など豊かな自然に囲まれております。また、700年を超える歴史の中で城下町に多様な文化が醸成され、掘り割りに鯉の泳ぐ殿町通りや古い商家や民家が立ち並ぶ本町通りの佇まいは豊かな自然と調和して、多くの観光客の皆様に親しんで頂いております。

平成17年に津和野町と日原町が合併し、新たに津和野町としてスタートした本町も、合併により307㎢と面積は拡大する一方で、過疎化の進行はありますが「人と自然に育まれ温もりのある交流のまち」を目指して、官民協働のまちづくりに取り組んでおります。また、本町面積の90%を森林が占めており、森林資源を活用した林業を生業として確立するための自伐型林業の再生を町の施策として進めています。

さて、平成25年7月28日に本町を襲った、島根県と山口県を中心とする大雨は、気象台発表の「これまで経験した事のない大雨」となり、1日で381ミリという観測史上最大の雨量を記録しました。この大雨により発生した土石流などの影響で、家屋の流失や全半壊など未曾有の大打撃を受け、行方不明者1名、重傷者1名、孤立集落4集落のほか、1,859世帯を対象に避難勧告を出すなど、名賀地区をはじめ町内各地に甚大な被害を及ぼしました。

平成25年8月16日13時現在で、島根県が発表した「7月28日の大雨による被害について（最終報）」では、津和野町・益田市・吉賀町の被害総額は12,438百万円とされ、公共土木施設で7,996百万円、農林水産関係で4,329百万円、商工業関係で建物被害や宿泊予約キャンセルなどの影響により113百万円の被害となりました。

本町においては、大雨による河川の増水や大規模な山腹の崩落などにより、200箇所を超える土砂災害や道路・河川被害が発生し、被害額は90億円を超えました。

この様に、甚大な被害をもたらした、島根県と山口県を中心とする大雨に関しまして、平成29年11月25日において、白井地区防災拠点施設内に、防災祈念碑を建立し被害にあわれた方を追悼し、災害復旧事業等に関する意義の継承、さらなる防災安全意識の向上を図るため、津和野町主催により防災祈念式典を開催しました。また、式典においては、国・県をはじめ多数のご来賓にご出席頂き、ありがたく感謝しているところです。

この災害を教訓として、防災行政無線の整備や集落間を結ぶ道路の複数化、管内測量設計業者等との災害協定の締結などを行うとともに、住民参加による防災訓練を行うなど、災害発生時に円滑な対応ができる体制の構築を図らなくてはなりません。

また、森林の維持造成を通じて山地における豪雨等に起因する災害から生命・財産を守る事が肝要であると考えております。とりわけ、治山・林道事業は津和野町にとって重要事業である事は、言うまでもありません。本防災祈念式典を契機に、防災減災に向けての

施策を講じるとともに、次世代にわたって継承していく事が重要であると、認識しております。

最後に、国・県をはじめ関係機関、災害ボランティアの方々など多くのご支援に、あらためて感謝を申し上げます。住民の皆さまの安心・安全を確保する対策は、決して十分と言えるものではなく、継続しての課題と認識しておりますが、今後とも、関係の皆さまのご指導、ご支援を賜ります様よろしくお願い申し上げます。



防災祈念碑 除幕式



復旧したJR山口線を通る、SLやまぐち号（44年ぶりに復活したD51型）



J R 白井トンネル地区第2工区

谷止工3基（1工区1号： $V=268.3\text{m}^3$ 、2号： $V=254.3\text{m}^3$ 、2工区1号： $V=188.9\text{m}^3$ 、
事業費約82百万円）



津和野町では、国・島根県様のご尽力により、被害が甚大であった名賀地区を中心に災害
関連緊急治山事業が実施され、荒廃した溪流13箇所には谷止工34基、崩壊が発生した県道
脇の山腹斜面1箇所において山腹工が施工されました（事業費約10億円）。

雲南市の今後の森林施業について

(1) 現状と課題

雲南市の43,541haの森林面積のうち私有林は40,350haであり、うち人工林は18,283ha、人工林率は約45%である。

雲南市の林業情勢については、近年の木材価格の低迷や森林経営者の高齢化等により林業経営意欲は低下しており、とりわけ人工造林地については手入れ不足等により荒廃化が進んでいる。また、森林経営者の世代交代、転出等により森林の所在地や境界が不明瞭となってきた。

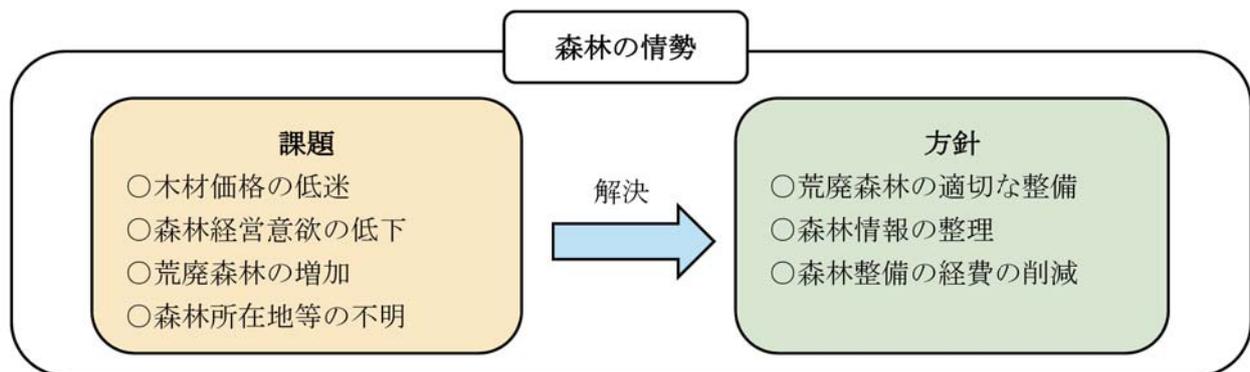
(2) 解決に向けた方針

これらの課題に対応するため、市としては平成19年度から林業振興モデル団地事業に取り組んできた。これは市有林を核に、市有林と一体で管理できる私有林を取り込んで団地化を行い、森林組合と信託契約を締結することで森林の一体的整備を促進するものであり、現在4団地（新庄219ha、井原谷350ha、深野1,666ha、中野66ha、計2,301ha）の設定を行っている。しかしながら、団地内の私有林については、森林所有者の経営意欲の低下などにより信託契約が進んでいないという問題がある。

また、団地内に限らず市内全域の私有林についても整備不十分の森林の増加が予想されるため、このような私有林についても市が主体的に森林整備に関与していく必要がある。

特に、災害防止機能など森林の持つ多面的機能を十分に発揮できていない荒廃した人工林については、適切な整備を行うとともに森林の所在や境界情報等の整理を行う必要がある。また、造林地の集約化・団地化により森林経営にかかる経費の削減を行っていく必要もある。

(※なお、井原谷団地、深野団地については、民国連携森林整備協定事業にも取り組んでいる。民国連携団地面積：井原谷・南谷地域443ha、深野1,666ha)

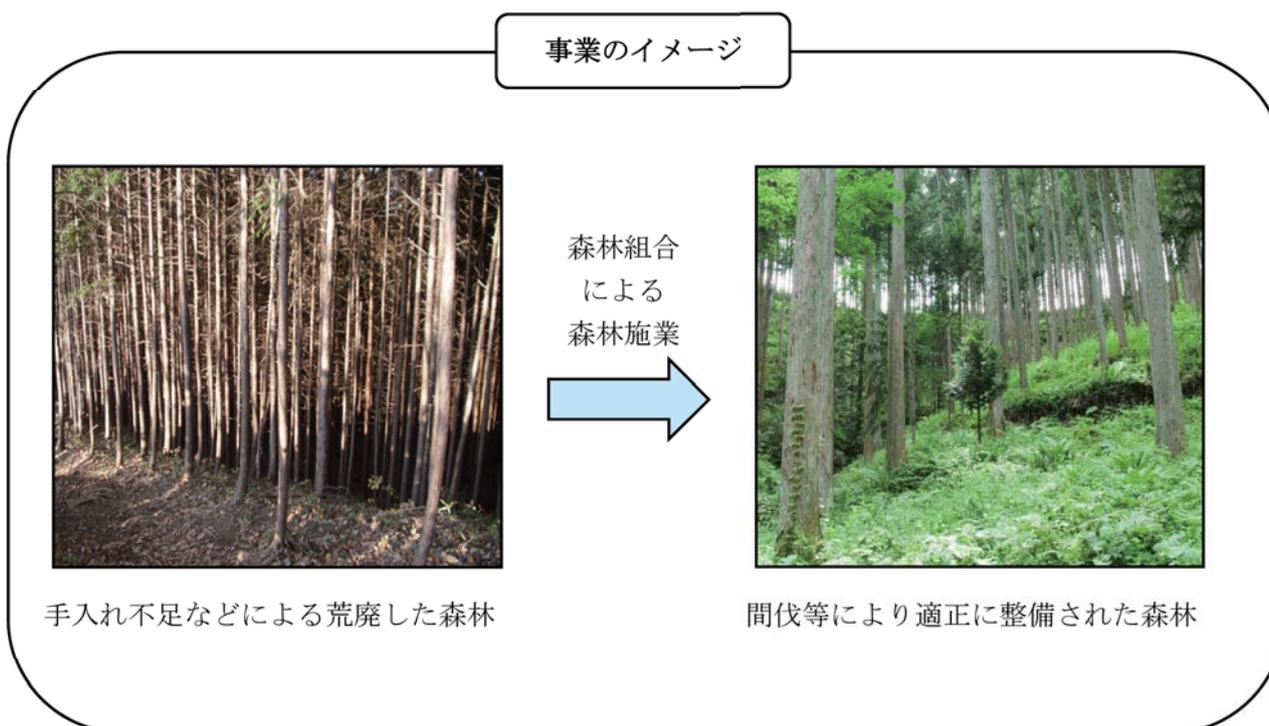
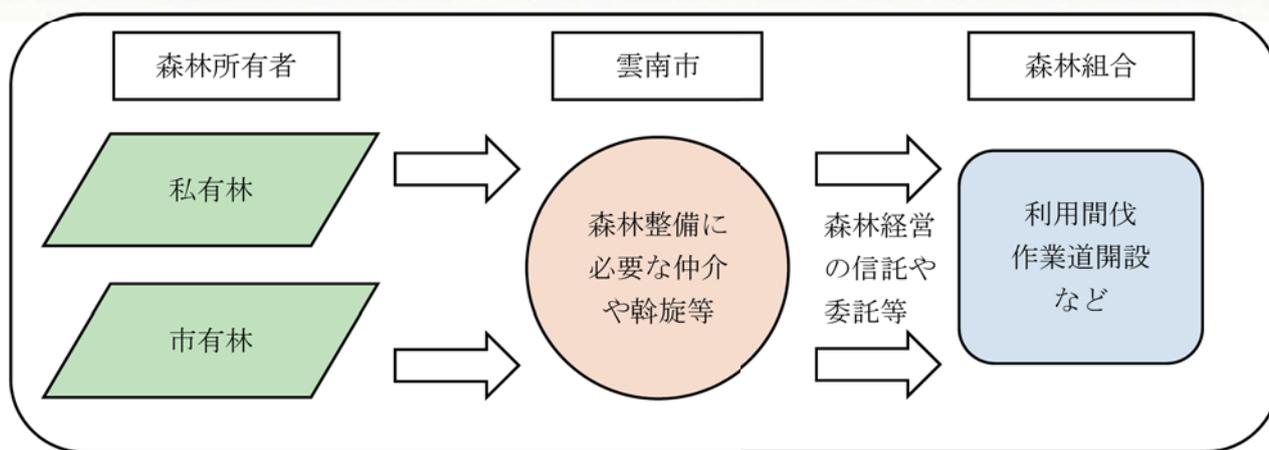


(3) 解決に向けた対策案

① 雲南市林業振興モデル団地における経営信託の促進

雲南市林業振興モデル団地事業のより一層の推進を図るため、モデル団地内の森林所有者と市との間で森林整備協定（または森林経営契約）を締結したうえで、森林所有者と森林組合による森林経営信託契約を促進する。この信託契約により森林組合への私有林の集積を促進し、長期的・計画的な施業の実施や作業路網の一体的整備など、効率的な森林整備に繋げる。

なお、森林組合への信託森林面積が増加することによらない、施業に要する経費の増加が見込まれることから、林業関連補助事業を活用するほか、「(仮称)森林環境税」を財源として活用する。



②林地中間管理機構（仮称）の創設

中山間地域においては、林地は農地と同様、あるいはそれ以上の荒廃が進んでいる。農地については国の主導により「農地中間管理機構」を創設し、農地の担い手への集約化が促進されたが、林地についても、農地中間管理機構と同様の位置づけをもつ「林地中間管理機構（仮称）」の設置により林地の大規模な集積を図ることによって、受託者の長期的・計画的な施業の実施や作業路網の一体的整備など、効率的な森林整備を可能とする仕組みづくりが必要である。

小規模林家は山林の経営意欲が低いと考えられることから、例えば、市が中間管理機構の役割を担い、林業の担い手である森林組合への斡旋等による林地の集積を促進する。また、所有者が不明な森林の場合には、中間管理機構を担っている市の責任に基づいて森林組合へ経営委託を行い、所有者が判明した段階において返還等を行うなどの仕組みを構築する。

森林組合への林地の集積、森林整備の促進のためには、施業に要する経費増加が課題となるため、この森林施業にかかわる財源として「（仮称）森林環境税」を活用する。

さらに、伐期を迎えた森林の更新による多面的機能の維持を図る観点から、主伐を実施した森林所有者に対し、「（仮称）森林環境税」を財源に、主伐後の再造林、保育経費支援を実施する。

島根県森林審議会の役割と活動について

島根県 農林水産部

農林水産総務課 政策推進スタッフ

■島根県森林審議会とは

島根県森林審議会は、森林法の規定により島根県が設置しており、現在の委員は、男性6名、女性6名の12名で構成されています。

なお、委員の内訳は、市町村、大学、林業団体、林業・木材産業、住宅・建築、環境・森林活動、公募の各分野からの選出となっています。

また、森林審議会には、特定の専門的な見地から審議を行う「森林保全部会」も設置され、5名の委員が森林保全部会委員となっています。

■島根県森林審議会の役割

森林審議会は、森林法に基づき審議会の意見聴取が求められている地域森林計画の樹立・変更や林地開発許可などの審議とともに、島根県が策定した「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画」に関して、農政審議会や水産振興審議会とともに外部評価機関としての役割なども担っています。

■島根県森林審議会の活動

審議会が、上記のような役割を的確に果たしていくために、県内各地域の森林・林業・木材産業に係る現地調査を実施しています。

今年度は、隠岐地域における「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画 第3期戦略プラン」に係る各プロジェクトの取組状況を10月25日（水）に現地調査していただきました。

①ウッドヒル〔隠岐島木材業製材業協同組合〕

（隠岐の島町原田）

「隠岐（しま）の木利用拡大プロジェクト」により、製材品の高品質化や島外出荷の拡大などに取り組むウッドヒル（隠岐島木材業製材業協同組合）を現地調査し、製品出荷の状況や今後の課題などについて意見をお聞きました。

島根県森林審議会委員名簿

任期：平成29年8月1日～平成31年7月31日

分野	区分	氏名	所属等
市町村	◇	山 碓 英 樹	飯南町長
大学	◎	伊 藤 勝 久	島根大学生物資源科学部 教授
林業団体	○	広 江 慎 一	(一社)島根県森林協会 専務理事
	◇	長 尾 宏 一	(一社)島根県木材協会 専務理事
林業・木材産業		立 石 幸	飯石森林組合 代表理事組合長 島根県森林組合連合会 副会長
		吉 川 由 希 子	森林組合女性ネットワークの会 会長 仁多郡森林組合 参事
	◇	浦 田 明 彦	浦田木材株式会社 代表取締役
住宅・建築		塩 見 菜 梨 佳	一級建築士 建築設計事務所始屋工房
		田 中 昌 子	一級建築士/インテリアプランナー 田中まさこ建築設計室 代表
環境・森林活動		田 代 祐 子	林研グループフレッシュミセス 益田市匠見上地区振興センター
	◇	樋 口 千 代 子	樹冠ネットワーク 代表 森林技術サポーター
公募		佐々木 富士子	

(注)区分の記号は、◎:審議会会長、○:会長職務代行者・森林保全部会会長、◇:森林保全部会委員



②島根県林業公社更新伐施行地

(隠岐の島町西村)

「隠岐(しま)の木生産拡大・再造林推進プロジェクト」により、原木生産・低コスト再造林の取り組みを進めている林業公社の更新伐施行地を現地調査し、委員からは路網整備の状況や作業システムなどについて多くの質問があり、地元事業者から説明をいただきました。



③隠岐の島町消防署〈木材利用事例〉

(隠岐の島町平)

「隠岐(しま)の木利用拡大プロジェクト」に関連し、隠岐産木材を使用した公共施設の事例として、隠岐広域連合消防本部庁舎の内装木質化の施工状況等を現地調査し、全国的にも珍しい消防署での内装木質化の状況を見学しました。



④吉崎工務店〈原木シイタケ生産施設〉

(隠岐の島町東郷)

「隠岐しいたけ振興プロジェクト」により、クヌギ人工林資源を有効活用し、地域経済や雇用創出に貢献する建設業者の取り組み状況を現地調査し、「美味しまね認証」を取得された安全・安心な原木しいたけの生産状況や販路などについて、代表者から説明をいただきました。



⑤西郷港小田土場〈原木島外出荷〉

(隠岐の島町東郷)

「隠岐(しま)の木利用拡大プロジェクト」により、隠岐島木材業製材業協同組合が原木の島外出荷を行っている西郷港小田土場を現地調査し、離島ならではの課題などを地元事業者からお聞きしました。



■島根県森林審議会の今後

今回の現地調査では、隠岐地域の森林・林業・木材産業の状況、特に離島地域の独自の取組などを見ていただき、地元事業者などの意見を直接聞いていただくことができました。

今後、島根県が策定する各流域別の地域森林計画の樹立・変更の審議や、今年度が2年目となっている「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画 第3期戦略プラン」の進行管理への意見聴取に際して、大いに役立つものと期待しています。

第71回全国植樹祭の会場が正式決定

林業課 全国植樹祭推進室

第71回全国植樹祭（平成32年）の式典会場が、平成29年11月15日の島根県と国土緑化推進機構の協議により「三瓶山北の原（大田市）」に正式決定しました。

本県での開催は、昭和46年の第22回大会以来49年ぶり、2回目の開催になります。

現在、第71回全国植樹祭島根県実行委員会を設立し、開催に向け準備を進めています。

1 全国植樹祭とは

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り行う国土緑化運動の中心的行事であり、昭和25年に山梨県で第1回大会が開催されて以来、各都道府県において毎年春期に順次開催されています。

2 第71回全国植樹祭の概要

- ① 開催時期 2020年（平成32年）春期
- ② 開催会場 三瓶山北の原（大田市）
- ③ 主催者 公益社団法人国土緑化推進機構、島根県
- ④ 開催理念 循環型林業の実践
県民参加の森づくりの拡大
本県の歴史文化や豊かな自然等の魅力発信
- ⑤ 開催規模 県内外招待者約4000人
- ⑥ 主要行事 天皇皇后両陛下によるお手植えお手播き、各種表彰、記念植樹など

三瓶山北の原



3 開催準備のスケジュール

- | | | |
|----------|-------------|-----------|
| 平成29年 8月 | 開催県の決定 | （機構理事会） |
| 平成29年11月 | 開催会場の決定 | （知事・機構協議） |
| 平成31年 2月 | 基本計画の決定 | （機構特別委員会） |
| 平成31年 8月 | 開催日の決定 | （機構理事会） |
| 平成32年 2月 | 実施計画の決定 | （機構特別委員会） |
| 平成32年 春期 | 第71回全国植樹祭開催 | |

全国植樹祭富山大会



国への要望活動

平成29年9月11日、速水会長（雲南市長）と立石理事（飯石森林組合長）が林野庁沖長官ほか関係部課長、総務省内藤自治税務局長、そして県選出国會議員4名に対して要望活動を行いました。

市町村が主体となって森林整備を計画的、安定的に推進し、その資源を活用して森林・林業・木材産業を活性化していくための財源として「森林環境税」の早期創設を重点的に要望しました。

【要望事項】

- 1 森林環境税（仮称）の早期創設
- 2 造林事業予算の増額
- 3 林道事業予算の増額
- 4 治山事業予算の増額



竹下総務会長



沖林野庁長官

県への要望活動

平成29年10月10日、島根県森林組合連合会、（一社）島根県木材協会、島根県林業種苗協同組合とともに島根県知事、副知事、総務部長、農林水産部長へ要望活動を行いました。

同じく県議会（林業振興・木質バイオマス議員連盟）へは9月26日に要望しました。

【要望項目】

- 1 「森林環境税（仮称）」の創設について
- 2 木材の増産対策の継続実施について
- 3 造林事業、林道事業の予算増額について
- 4 林業用種苗における需要量の安定確保について
- 5 治山事業予算の増額について



知事室



議事堂別館

平成29年度 全国治山・林道工事コンクール

平成29年11月30日、一般社団法人日本治山治水協会、日本林道協会主催による平成29年度治山・林道工事コンクールの表彰式が行われ、島根県から推薦した治山、林道工事が各賞を受賞しました。



1. 第33回 民有林治山工事コンクール

受賞区分 一般社団法人 日本治山治水協会会長賞
工事名 県単自然災害防止事業 流石地区工事
受賞者 堀建設(株) 堀 大地



2. 第18回 民有林治山木材使用工事コンクール

受賞区分 一般社団法人 日本治山治水協会会長賞
工事名 水源森林再生対策事業(大吉田2工区) 溪間工事
受賞者 島根県雲南県土整備事務所 農林工務部 治山・林道課



3. 第40回 林道維持管理コンクール

受賞区分 日本林道協会長賞
路線名 林道亀割線
受賞者 出雲市長 長岡秀人



4. 第33回 民有林林道工事コンクール

受賞区分 日本林道協会長賞
工事名 林道開設事業（森林管理道） 宮本聖谷線 第1工区道路工事
受賞者 (株)安井組 安井和広



5. 第18回 民有林林道木材使用工事コンクール

受賞区分 日本林道協会長賞
工事名 林道整備交付金事業 三子山線（第3工区）工事
受賞者 島根県益田県土整備事務所 農林工務部 治山・林道課



「輝けイレブン 町村フェスティバル 2017」に参加

9月30日（土）と10月1日（日）の2日間、松江市のTSK山陰中央テレビ新社屋特設会場で開催され、今年も参加しました。

このイベントは県内11町村の伝統文化や芸能の紹介、また地域の特産品を出店販売することで、「まち・むら」の魅力・輝きを情報発信する催しです。7回目を迎えた今年は過去最高の3万人の来場者がありました。

ステージでは特別参加くまモンとしまねっこのパフォーマンス、山根万里奈さんの「輝け11公式ソング」発表、松田前隠岐の島町長による町村会創立百周年記念詠句の披露などで盛り上がりました。

森林協会ブースでは恒例の木工教室を開催し、大盛況でした。



相撲甚句の披露



森林協会ブース

治山と林道 2017 No.117

発行 平成29年12月

編集 一般社団法人島根県森林協会

島根県松江市母衣町55番地

電話 (0852) 21-2669 FAX (0852) 21-2231

<http://shinrin-shimane.jp/>

E-mail: kyoukai@shinrin-shimane.jp

印刷 授産センターよつば